上越教育大学研究紀要　第33巻　平成26年３月
Bull. Joetsu Univ. Educ., Vol. 33, Mar. 2014

小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した５年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果

北　條　礼　子*・松　崎　邦　守**

(平成25年９月30日受付；平成25年11月５日受理)

要　　旨

平成23年度より全国公立小学校高学年において外国語活動（英語）が必修化されたが，現在５年生時点で既に同活動に意欲が低く，不安が高い児童が38％存在していることも報告されている。ここから，児童の同活動への動機づけを高める手段が必要な状況である。2012年10月から2013年３月にかけて，５年生児童の同活動への動機づけの向上を目的とし，学習内容として海外交流，文字指導を取り入れ，さらに自律的学習態度の養成を目指して教授ツールとしてのポートフォリオ作成を実施した。本学附属小学校５年生75名が参加したが，学習内容とポートフォリオは参加者から概ね好意的な評価を受け，５年生を対象とした海外交流や文字指導は効果的であることと教授ツールとしてのポートフォリオの効果が期待できることがわかった。

KEY WORDS
portfolio ポートフォリオ　instructional tool 教授ツール　motivation 動機づけ
intercultural exchange 国際交流　reading and writing of English 文字学習
phonics フォニックス　language activities at elementary school 小学校外国語活動

１．研究の背景

1.1　小学校外国語活動（英語）の現状

英語活動は2011（平成23）年度より「総合的な学習の時間」から独立し，外国語活動（英語）として全国公立小学校の高学年５・６年生において週１回年間35回程度必修化された。日本英語検定協会（2012）が全国1,463校の公立小学校を対象に実施した外国語活動に関する調査の結果，平成23年度に同活動が平均年間時数として「23－35」時間と「36－70」時間を加えた実施率は５・６年生ともに93％であった。また，４年生以下の平均年間実施時数をみると，全く同活動を実施しなかったのは１年生では26.6％，２年生では26.6％，３年生では23.0％，４年生では22.1％であり，４年生以下でも70％以上の公立小学校で同活動が行われていたことが報告されている。ただし，年間「４～11」時間の実施が最も多く全体の30％となっている。

外国語活動では英語嫌いを生み出さないことが基本理念（文部科学省，2004）とされているが，同活動が必修化された高学年をみると，英語が嫌いになっている児童が相当数いることも明らかになっている（横石，2012）。同活動の必修化が英語嫌いを作らないことが目的であったにもかかわらず，横石は，同活動に対して「低意欲・高不安」の状態になっている子どもが両学年においてそれぞれ38％存在していたと述べている。また，中学校入学時に「英語が好き」であり，「中学校で英語を学ぶことが楽しみ」な生徒が50％に達していないことから，吉田（2009）は小学校時代の英語の学習内容が影響している可能性が高いと述べている。

1.2　高学年児童の外国語活動（英語）への動機づけを高める手立て

現在，５年生時点で外国語活動に対する動機づけが低下することが，問題となっている。この時点での動機づけを低下させない手立てとして，５年生児童の知的欲求に合致する，文字学習，国際交流，他教科関連内容を取り入れた活動，ソーシャル・スキルを組み込んだ活動や，自律的学習態度の養成に効果があるポートフォリオの活用などが考えられる（北條・松崎ほか，2013）。

ここで，国際交流であるが，先行研究から，「話す」「聞く」中心の活動だけではなく，「読む」「書く」活動を中心とした国際交流活動が小学校においても実施されている。英語を「読む」・「書く」活動に（山本，2011；國本，1998）や文字を扱うことが児童の知的欲求に合致していること（小学校外国語活動ガイドブック，文部科学省，2009）から

*人文・社会教育学系　**北海道教育大学

も，英語の文字学習を国際交流活動に組み込んでいくことは意義があると考えられる。

1.3　小学校外国語活動（英語）における反省的実践家の養成とポートフォリオ活用

次に，ポートフォリオは，どのようなものでも収集する雑多ファイルではなく，一言でいうと目的つきファイルである。ポートフォリオは，学習成果を収集しながら学習過程を時系列に記録することができ，収集された成果を基に学習者が自分自身の学習を定期的に振り返り修正していくことができる。さらに，協同学習の場面提供という観点から，カンファレンスではそれぞれの学習成果についてお互いに発表し合うことで学習者間の学び合いを促進することが可能となる。

筆者らは，これまで，学習者の自己調整学習能力を高めるためにポートフォリオを教授ツールとして活用し様々な教育分野で研究を実施し，ポートフォリオを活用した学習活動には，学習の指針を示すガイドラインの事前明示，授業の振り返りを記述するゴールカードの実施，ポートフォリオ作成をとおして学習したことを，定期的に話し合いをしながら振り返る場としてのカンファレンスの実施を組み込んできた（松崎 2003；2004：松崎・北條 2007）。さらに，小学生高学年児童に対しても，ポートフォリオが教授ツールとして効果が期待されることがわかった（北條・松崎 2013）。

２．研究の目的

本研究の第一の目的は，児童の知的好奇心に働きかけると言われている文字指導と海外交流を組み合わせた外国語活動プログラムを開発することである。

本研究の第二のプログラムは高学年児童を対象としたポートフォリオの効果を明らかにすることである。

３．研究の方法

3.1 実験実施時期：　2012年10月～2013年３月

3.2 対象者：　教員養成系Ｊ大学附属小学校５年生75名

3.3 測定具：

①海外交流校とのメッセージ交換活動に関するARCS動機づけモデルによる５項目
②ポートフォリオを活用した外国語活動プログラムに関する５段階尺度形式12項目
③児童が作成したポートフォリオ

3.4 教員養成プログラムの留意点：

設計上の留意点として，これまで実践してきた研究結果から，ポートフォリオ作成過程で重要な活動であることが明らかになった，①ガイドラインの事前明示，②ゴールカードの実施，③カンファレンスの実施，④仲間との学び合いの活動４つの活動を組み入れた。

3.4.1　ガイドライン

学習プログラムに開始に当たり，以下に示すガイドラインを事前に児童全員に配布し，ポートフォリオの作り方の説明に加えて，学習の目当てと学習計画を児童に提示した。

外国語活動（英語）ポートフォリオの作り方説明書

今年の大学英語では，配られたファイルを使って「ポートフォリオ」を作成していきます。

「ポートフォリオ」とは，自分の学習の成果を「**目的にそって**」集めていくものです。これから，ポートフォリオの作り方を説明します。

１．ポートフォリオを作成する目的

みなさんの次のような力をさらに伸ばすためです。

〇自分の成長に気づけるようになる。

〇友達の頑張りや成長をみて，自分の学習に生かせるようになる。

〇学習したことがよく分かるようになる。

２．ポートフォリオとして集めるもの

①毎回の学習の成果や自分や友達の頑張りを評価したもの。

②全10回の大学英語が終わったあとに，自分の頑張りを振り返ったもの。

※詳しい内容は，５で説明します。

３．ポートフォリオを作成する期間 10月26日（金）～３月１日（金）の活動まで

４．ポートフォリオの保管

ポートフォリオの保管場所は，教室内のポートフォリオ専用ファイルボックスの中とします。各自が責任を持って保管します。先生から指示があったときだけ，家に持ち帰ります。

ポートフォリオに収められた学習成果に基づいて，みんなで学び合い（学び愛）をしますので，絶対になくさないでください。

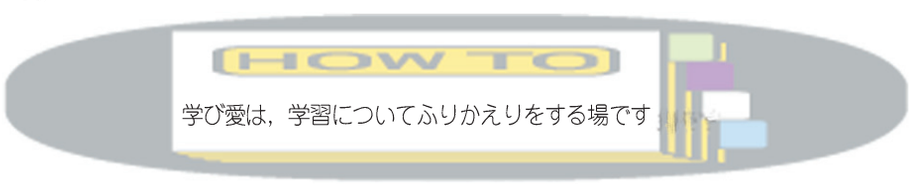
５．ファイルに入れるものについて

内　　容	収　集　の　時　期
① ポートフォリオの作り方説明書	・今日さっそくファイルへ！
② ゴールカード（自分のめあてやそのめあてに対する自己評価）	・毎授業終了時
③ 配布されたプリント （ファイルするよう指示があったもの）	・授業で指示します。 （先生の話をよく聞きましょう）
④ 「学び愛」シート及び 「学び愛」ふりかえりシート	・「学び愛」終了時
⑤ 「学び愛」カード	・「学び愛」で仲間の発表を聞いたとき
⑥ まとめカード （全10回の学習をとおして，自分が成長したことや，頑張ったことについて）	・全10回の授業が終わったとき
⑦ その他（自分が特に必要であると判断したもの）	・いつでも

※ファイルに入れるものには日付を書くらんがありますので，必ず書きましょう！

日付を書くらんが無いものを入れるときは，自分で必ず日付を書きましょう。

６．学び合い（学び愛）について



このポートフォリオ学習では，「学び合い（学び愛）」を大事にします。

「学び愛」の内容（どのようなことについて振り返るのかや参加者など）については，１週間前にあらかじめお知らせします。

次のとおり，ポートフォリオ作成に関し「学び愛」を２度行います。

①グループでの「学び愛」…　班ごとに実施　　11月30日（金）

②全体での「学び愛」　　…　全員参加で実施　　３月１日（金）

７．ポートフォリオ学習で大切なことについて

このポートフォリオ学習では，仲間との学習を大切にします。お互いに学びあいながら学習を進めていきましょう。

8．学習計画の修正について

学習を進めていく中で，今日説明したことに関する内容の一部を修正する必要がある場合には，事前にみなさんにお知らせします。

5年生のめあて

その1	書くこと ○オーストラリアのバディーにクリスマスカードを書いてみよう！
その2	読むこと ○バディーから送られてきたクリスマスカードを読んでみよう！

時間	学習内容
1時間目 10/12	○事前テスト（どのくらい書けるかな） ○ポートフォリオ作成のためのガイドライン ※みなさんに，一人一冊ファイルを配ります。 このファイルの使い方や，中に閉じていくものについてお話します。
2時間目 10/26	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○クリスマスカードを書く準備をしよう。
3時間目 11/2	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○クリスマスカードの下書きを完成させよう。
4時間目 11/16	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○クリスマスカードの清書を完成させよう。絵や飾りもつけてみよう。
5時間目 11/30	○グループでの学び愛（中間） ※これまでに記入したゴールカードを見ながら，自分や友達の頑張っているところや成長したと思うことについてグループで発表し合います。
6時間目 12/14	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○バディーが書いてくれたクリスマスカードを読もう。
7時間目 1/18	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○オーストラリアのバディーとの交流第2バージョン（内容はお楽しみに！）
8時間目 1/25	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○オーストラリアのバディーとの交流第2バージョン（内容はお楽しみに！）
9時間目 2/22	○ゴールカードの記入（めあて・振り返り・自己評価） ○オーストラリアのバディーとの交流第2バージョン（内容はお楽しみに！）
10時間目 3/1	○事後テスト（今までの大学英語を通してどのくらい書けるようになったかな） ○グループと全体での学び愛（最終） ○まとめカードの記入 ※今まで書きためたゴールカードを見ながら，10回の授業を振り返りながら，まとめのカードを書きます。

※学習を進めていく中で，この10回の授業計画を変更する場合には，みなさんに事前にお知らせします。

3.4.2　ゴールカード

今回の取り組みでは，以下のようなゴールカードをNo１からNo３まで３枚用いた。「今週の目当て」は指導者が提示することとし，子どもには「ふりかえり」として，自分自身に対するふりかえりと生活班仲間のよい点に気づくように工夫した。

５年生ゴールカード（No.１）　　５年＿＿＿組＿＿＿＿番　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇次の時間の学習予定を確認しながら記入しよう！

日付	今週のめあて	新しく学んだこと・できるようになったこと 頑張ったこと・見つけたこと
10/26	〇	〇自分のめあてに対するふりかえり Ａ　・　Ｂ　・　Ｃ ・ 友達のいいところ見ぃつけた！ 同じグループの ＿＿＿＿＿＿＿＿さんが， していた。 それをみて と思った。
11/２	〇	〇自分のめあてに対するふりかえり Ａ　・　Ｂ　・　Ｃ ・ 友達のいいところ見ぃつけた！ 同じグループの ＿＿＿＿＿＿＿＿さんが， していた。 それをみて と思った。

※Ａ：自分のめあてが達成できた　Ｂ：自分のめあてを半分は達成できた　Ｃ：もっとがんばらなきゃ

3.4.3　カンファレンスと仲間との学び合いの活動

カンファレンスは中間時期の５回目と最終の10回目に実施した。ここでのカンファレンスは仲間との学び愛の活動ともいえる。カンファレンスに必要な書式は，通常カンファレンス・シートといっているものを「学び愛シート」（表）とし，カンファレンス直後に記入するカンファレンス・リフレクション・シートは書式を簡略化し，「学び愛シート」の裏面にし，２回のカンファレンスで用いた。２回目のカンファレンスで用いたものは以下に示すとおりである。

第２回　学び愛シート　　2013年２月22日（金）

＿＿＿＿＿組＿＿＿＿＿班＿＿＿＿＿番　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

これから，私が自分のポートフォリオ（ファイルやノート）を見返して，これまでの大学英語についてふりかえったことを発表します。

１　私が大学英語の授業の中で，一番がんばったことは

です。

理由は，

２　私が大学英語の授業の中で，前よりできるようになったことは／よくなったことは

です。

以上です。私のふりかえりを聞いていただきありがとうございました。

コメントもよろしくお願いします。

（裏面のカンファレンス･リフレクションシートに当たる部分）

友だちの発表を聞いて，メモが必要な人は書きましょう。

（　　）さん	（　　）さん
（　　）さん	（　　）さん
（　　）さん	（　　）さん

○　友達からもらったコメントを見たり，友達の発表を聞いたりしてどんなことを考えましたか。

3.5　分析方法

直接確率計算（母比率不等）により分析を行った。

４．研究の結果と考察

4.1　ARCS動機づけに基づく外国語活動の学習内容の評価について

活動内容に対する項目５項目のそれぞれの平均（*M*）と標準偏差（*SD*）と，５階尺度形式の頻度数を２段階（「はい，少しはい」を「肯定」，「どちらでもない，少しいい，いいえ」を「それ以外」）とした度数と，それを基にした「２：３」の母比率不等の直接確率計算結果を表１に示した。５項中「自信」に関する項目以外の項目の平均が3.80以上（５点満点）であり本研究の参加者は概ね好意的に評価していた。また，母比率不等の直接確率計算の結果，クリスマスカード，ビデオレターのどちらの活動内容についても「自信」に関する項目は有意差は示されなかったが，その他の項目については１％レベルで有意に肯定的な回答数が多かった。ここから，本研究の参加者はクリスマスカード作成やビデオレター作成を行い，自信がついたとは言えなかったが，関心，関連性，満足，意欲の側面では肯定的な評価をしていたことが明らかになった。

表１　文字指導とビデオレター作成それぞれに対するARCS動機づけモデルによる５項目の平均（*M*）と標準偏差（*SD*）ならびに度数と母比率不等の直接確率計算結果（*N*=75）

項　目　内　容	M	SD	肯定	中＋否	*p*		比較
クリスマスカード交換は：							
1　おもしろかった	4.27	1.08	57	18	0.00	**	肯＞中・否
2　やりがいがあった	4.04	1.24	54	21	0.00	**	肯＞中・否
3　自信がついた	3.27	1.33	35	40	0.14	*ns*	
4　満足した	3.83	1.19	52	23	0.00	**	肯＞中・否
5　もっとやってみたい	3.71	1.38	46	29	0.00	**	肯＞中・否
ビデオレター作成は：							
1　おもしろかった	4.16	1.22	58	17	0.00	**	肯＞中・否
2　やりがいがあった	4.00	1.22	54	21	0.00	**	肯＞中・否
3　自信がついた	3.27	1.28	31	44	0.45	*ns*	
4　満足した	3.84	1.24	46	29	0.00	**	肯＞中・否
5　もっとやってみたい	3.80	1.43	51	24	0.00	**	肯＞中・否

$^{**}p<.01$

4.2　外国語活動におけるポートフォリオを活用に関する５段階尺度形式13項目について

外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する５段階尺度形式13項目の平均（*M*）と標準偏差（*SD*），ならびに頻度数の集計結果と母比率不等直接確率計算結果は以下の表２に示すとおりである。なお，全12項目について，５段階尺度形式の頻度数を３段階（「はい，少しはい」を「肯定」，「どちらでもない，少しいいえ，いいえ」を「それ以外」）とし，「２：３」の母比率不等の直接確率計算を行った。

この12項目は５点満点であるが，平均は3.29～4.16を推移しており，12項目中10項目が3.50以上であった。また，直接確率計算の結果，項目５と６は有意傾向を示し，項目11は５％レベルで，後の９項目は１％レベルで有意であり，全項目において肯定的な回答がそれ以外の回答より多かった。以上から，本研究の教授ツールとしてのポートフォリオは，５年生児童から概ね肯定的な評価を受けていたと考えられる。また，ゴールカードによるめあての達成やカンファレンスでの学習の振り返り，友人の良い点にきづくことに関しての得点が高い傾向がみられた。しかし，４点台を示した項目が１項目のみであったことから，ポートフォリオの活用についてさらなる改善の余地があると考えられる。

表２　外国語活動におけるポートフォリオを活用関連12項目の平均（*M*）と標準偏差（*SD*）（*N*=75）

	項　目　内　容	*M*	*SD*	肯定	中立＋否定	*p*		比較
1	ポートフォリオ作成で頑張ろう	3.83	1.16	50	25	0.00	**	肯＞中・否
2	ポートフォリオ作成で見通し	3.52	1.19	42	33	0.00	**	肯＞中・否
3	ゴールカードで頑張ろう	3.52	1.16	41	34	0.007	**	肯＞中・否
4	ゴールカードでめあての達成に	3.87	0.99	55	20	0.00	**	肯＞中・否
5	めあての振り返りは次の授業の意欲に	3.36	1.19	36	39	0.098	†	肯＞中・否
6	友のよい点は自分の学習に有効	3.29	1.24	37	38	0.06	†	肯＞中・否
7	カンファレンスで自分の学びの振り返り	3.87	1.13	53	22	0.00	**	肯＞中・否
8	友の発表から友のよい点に気づく	4.16	0.92	60	15	0.00	**	肯＞中・否
9	友の発表から自分も頑張ろう	3.67	1.28	46	29	0.00	**	肯＞中・否
10	カンファレンスで自分の学習に生かせる	3.63	1.21	46	29	0.00	**	肯＞中・否
11	友のコメントでもっと頑張る気に	3.51	1.40	39	36	0.02	*	肯＞中・否
12	カンファレンスはやってよかった	3.72	1.24	48	27	0.00	**	肯＞中・否

$^{\dagger}.05<p<.10$　$^{*}p<.05$　$^{**}p<.01$

4.2.3　外国語活動におけるポートフォリオの活用に関する自由記述

4.2.3.1　カンファレンス・シート１にみられた自由記述

私が大学英語の授業の中で，前よりできるようになったことは／よくなったことは：

単語を使って短い文が作れるようになったこと，英語の聞き取りと英語書き，ある程度の英語や文章は読めるようになったこと，少し自信をもって英語を話せるようになったこと，分からない単語が書けるようになったこと

4.2.3.2　カンファレンス・リフレクション・シート１にみられた自由記述

友だちのコメントを見たり，友だちの発表を聞いて考えたこと：

みんな成長している。英語の発音や書いたり伝えたりできるってすごい，オーストラリアの人との交流はすごくたのしかったです。６年生になってもがんばりたいです，同じ人が多い，みんな上達していた，みんなとても努力していてすごいと思った，私は自分が，すごく成長できたんだなーと気付くことができました，６年生になったら，もっと協力して外国語活動をしていきたいです。みんなそれぞれがんばっていて，私ももっとがんばらないと行けないと思った，みんなすごい上達量が多いなーと思った。それでぼくもそれくらい上達したのかと思った

以上から，ポートフォリオを活用した学習は５年生児童から肯定的に捉えられており，カンファレンスにおいて仲間から前向きな刺激を受けていることがうかがえる。さらに海外交流，文字指導という学習内容を楽しんでいたことも感じ取れた。

５．今後の課題

本研究の外国語活動におけるポートフォリオを活用し，文字学習，国際交流を学習内容とした外国語活動は，５年生児童から概ね肯定的な反応が得られた。クリスマスカード作成，ビデオレター作成ともおもしろく，やりがいがあったという反応が得られた。また，ポートフォリオでは，特にカンファレンスの有効性が高い傾向が見られた。しかし，概ね肯定的ではあったが，対象者が中学生以上である先行研究に比べて反応が若干低く，カンファレンスの時間が短かったことから，発表ルールの一層の工夫も必要であると思われる。今後は，ポートフォリオ活用の効果がより向上するように，さらに工夫する必要があると考えられる。

引用・参考文献

Curtain, H., & Pesola, C. A. (1994). *Languages and children: Making the match* (2nd ed). White Plains, NY: Longman. (伊藤克敏ほか(編).『児童外国語教育ハンドブック』. 東京：研究社, 2005).

北條礼子・大田亜紀. (2009).「幼稚園児・小学生の知的好奇心を刺激する英語教育の学習プログラムの構築」.『教育実践研究』. 第19集. 19-26.

北條礼子・君　佳子. (2010).「文字指導を中心とした小学校英語活動の試み」.『教育実践研究』. 第20集. 19-26.

北條礼子. (2011).「ポートフォリオを活用した反省的実践家としての小学校英語教員養成プログラムの設計と試行」.『上越教育大学紀要』. 第30巻. 191-199.

北條礼子・君　佳子. (2011).「小学校英語活動における文字指導の試み」.『教育実践研究』. 第21集. 1-8.

北條礼子・松崎邦守・種岡真由美・陸川哲郎. (2013).「小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した５年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果」.『日本教育工学回第29回全国大会講演論文集』. 529-530.

Klenowski, V. (2002). *Developing portfolios for learning and assessment: Processes and principles.* London: Routledge Falmer.

國本和恵. (1998).「E-mail交換による児童のWriting Skillと海外の文化の認識」.『日本児童英語教育医教育学会研究紀要』. *17*, 79-90.

文部科学省. (2001).『小学校英語活動実践の手引き』. 東京：開隆堂.

文部科学省. (2008).『小学校学習指導要領解説　外国語活動編』. 東京：東洋館出版社.

日本英語検定協会. (2012).『小学校での外国語に関する現状調査』. 2013年９月12日検索. http://www.eiken.or.jp/news/kyoukai/12-518r01.html

野呂忠司. (2007).「小中連携と文字指導」.『小学校英語と中学校英語を結ぶ－英語教育における小中連携－』. (松川禮子・大下邦幸編著). 東京：高陵社書店. 102-118.

Shöne, D. (1983). *The reflective practitioner: How professional think in action.* NY: Basic Books.

山本淳子. (2011).「小学校英語教育居における国際交流の役割と意義」.『新潟経営大学紀要』. *17*, 103-116.

横石和子．(2012)．『小学校外国語活動における児童の不安が学習意欲に及ぼす作用に関する調査－不安に関連する諸要因に着目して－』．上越教育大学大学院提出修士論文．

吉田研作．(2009)．「『中学校英語に関する基本調査』から示唆されるもの」Benesse教育研究開発センター『第１回中学校英語に関する基本調査報告書』2013年９月16日検索．
http://benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/hon/pdf/data_02.pdf

The Development and Effects of Foreign Language Activities Utilizing Portfolios Aimed at Enhancing the Motivation of 5th Graders for Learning English

Reiko HOJO* ・Kunimori MATSUZAKI**

ABSTRACT

In April of 2011, foreign language (English in principle) activities were formally introduced into 5th and 6th graders of all the public elementary schools in Japan. In addition, the activities have been conducted for over 70% pupils from 1st to 4th graders all over Japan. Since then, it has been reported that about 38% of both 5th and 6th graders have come to dislike the English activities, it is crucial to enhance the positive attitudes of 5th and 6th graders toward these activities, so learning reading and writing English utilizing an international exchange program as well as portfolios can be expected to play this role of enhancing the student' motivation toward them.

From October in 2012 to March in 2013, 75 5th graders participated in this study, which was based on the results of the projects utilizing portfolios which aim to nurture students' reflective attitudes toward learning English. Data was obtained through a questionnaire and the students' comments at conferences held twice during the study. The results of the questionnaire revealed that the project including both reading and writing English in the international exchange program, and utilization of the portfolios was evaluated rather positively by the participants. Also, the comments supported the results.

* Humanities and Social Studies Education ** Hokkaido University of Education